

「結果の分析と指導の改善」

【英語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力や、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、その場面や話題等、大まかな内容や要点を聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ80%を上回っている。

英語による問いかけから相手が尋ねたい内容を正しく理解して、適切に回答する力をみる問題では、言語形式によらない場合も含めて、正答率が50%を下回っているものがある。

「読むこと」について、具体的な内容を正しく読み取ったり、まとまりのある英文や会話文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力をみる問題では、複数の問題の正答率が80%を上回っている。

会話の流れを理解して、場面に応じた適切な英語表現の使い方を理解する力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

「書くこと」について、絵で示された状況が正しく伝わるように英文を書く力をみる問題や、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題では、正答率が70%を上回るものがある。一つの話題について、読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力や、伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力をみる問題では、正答率が40%を下回っている。

2 結果の分析と指導方法の工夫改善

(1) 問いかけに対して適切に回答する力をみる問題の例

< 問題 > ①の3 (音声問題)

基礎学力UPのカギとなる問題

~「つまずき」とその解決策をさぐる~

これから放送するように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものを、ア~エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかける英文は2回ずつ放送します。

3 (放送文) I don't have a pen. Do you have a pen?

ア Yes, it is. イ Yes, here you are. ウ No, thank you. エ You are welcome.

< 結果 > 正答率 42.0% (正答...イ)

< 分析 >

この設問は、英語で問いかけられている内容を正しく聞き取り、適切に回答する力をみる問題である。①の3問中2問が50%を下回っており、十分に力が付いているとは言えない。

誤答としてはアが多い。Do you ~? に対して Yes - No を用いて回答するという事は理解できているが、一般動詞と be 動詞の正しい用法が定着していないこととともに、Here you are. の表す意味が理解されていないことが考えられる。同時に、Do you have a pen? は「ペンを持っていますか。」だけではなく、状況によっては「(持っていたら)貸してください。」という話し手の意向が含まれているということも即座に理解する力が不足している。同様の傾向は「読むこと」の⑦の1にも見られる。Can I ask your name? の問いに対して選択肢には Yes - No で始まるものがなく、それに続く What's your name? から類推して Pardon? を選択する問題であるが、正答率は45.9%に留まっており、「読むこと」の中では際立って低い。ここでも、言語形式によらず、前後から適切な表現を類推する力の育成が課題と言える。

一方、①の2の正答率が47.0%に留まっているのは、文頭の語に注意して聞き取るという意識ができていないため、You don't have your notebook. Where is it? の疑問詞 where を聞き取ることができなかったと考えられる。疑問詞から始まる疑問文の場合、文の初めに疑問詞が置かれるという特徴を押えた上で、繰り返し指導していくことが必要である。

< 指導方法の工夫改善 >

意味のあるコミュニケーション活動や場面設定の下で、相手の意向を理解し、言語形式によらないで適切に回答する力を高める指導を充実させる。 【聞くこと(ウ)】

実践的な英語運用場面を設定し、言語形式によらないコミュニケーションを多く体験させる。

- ・ALTと教師が、言語形式によらない対話モデルを意図的に示す。
 - ・クラスルーム・イングリッシュも含め、ALTや教師から個々の生徒に問いかける場面をより多く設定する。
 - ・授業開始後の帯活動の時間等に、挨拶に続くやりとりの中で、日常会話を交えた即興的な応答を位置付けるなど、「聞くこと(ウ)」にかかわる指導を意図的・継続的に行う。
- 授業中の英語使用量を増やすようにし、「英語を使いながら英語を学ぶ授業」を創り出す。
- ・簡単な英語で授業を進めることに教師自身が努め、英語でコミュニケーションを図ろうとする学習集団作りを推進する。その中で、相手の意向や伝えたいことの概要を聞き取ったり、それに対して適切に回答したり、場合によっては実際に動作で回答したりする力を、活動を通して身に付けさせる。

(2) 内容のまとまりを大切に書く力をみる問題の例

<問題> **8**

英語の授業で、「週末のできごと」という題でスピーチをすることになり、そのための原稿を作ることになりました。あなたが先週の土曜日または日曜日に体験したことについて、必ず、その時のあなたの気持ちを含めて、まとまりのある英文を3文以上書きなさい。

<メモらん>を自由に活用し、必要に応じて内容等を整理してから書いてもかまいません。

<結果> 正答率 39.2% (正答...略)

<分析>

この設問は、身近な話題について自分の書きたい内容を考え、まとまりのある英文で書く力をみる問題であり、従来から課題となっている問題である。

誤答を分析してみると、スペルや動詞の活用等の語彙レベルの誤り以外に、3文程度書いても、説明の羅列であったり話題に一貫性が無かったりする以下のような誤答が数多く見られ、「まとまりのある文」とは何なのか認識されていないことが考えられる。

[例1] I play the piano very much. I study math. It not esay. I read book very mach.

[例2] I played basketball. I studied English. But I didn't like English. I had a karaoke.

また、設問の条件である「そのときの気持ちを表す文」が入っていない誤答や、主語が欠落していたり、語順が間違っていたりして、読み手に内容が伝わらないような誤答も多い。

さらに、この設問では無解答率が21.9%にのぼる。「週末のできごと」というトピックについて「過去形を用いて書くんだな。」という内容がイメージできなかったことや、「まとまりのある3文」という英文を書くことに対する苦手意識の表れであると考えられ、この点からも、「書くこと」の指導の充実が急務であると言える。

<指導方法の工夫改善>

評価規準を明確にし、教科書題材とかがかわらせて、意味のつながりを大切にまとまりのある英文のよさに気付かせながら書く指導を段階的に行う。 【書くこと(ウ)】

「何文程度で、どんな構成で、どんな言語材料を用いて」書くのか、単元や単位時間の評価規準を明確化した指導の充実を図る。

・「日本語で内容を考えさせ、それを英訳させる」のではなく、書かせる内容について具体的な英文を構想して指導にあたる。

第1学年：「友達紹介」名前に続き、趣味やその友達に対する自分の気持ちを含めて3文程度で。

This is Hiroko. She plays the piano well. I like her very much.

第2学年：「将来の夢」なりたい職業名に続き、その理由や目標とする人物を3～4文程度で。

I want to be a singer. Why? I like to sing very much. I want to be like Madonna.

第3学年：「尊敬する人」人物名と尊敬する理由2つを含めて4～5文程度で。

Mr favorite person is John Lennon. I have two reasons. First, his songs make me happy.

Second, he wished world peace. He is a great artist that made a lot of wonderful songs.

・その上で、習熟の程度の高い生徒にはどんな表現を付加してさらに豊かな表現にする、評価規準に達しない生徒にはどのような手だてをうつなど、個に応じたきめ細かな支援を行う。

「まとまりのある文構成」のよさを味わわせる指導を工夫する。

・教科書題材に見られる文のつながりやまとまりを十分に指導した上で、それを基に自分のことに置き換えて英文の空所を補充したり、書き出しが指定された文に続けて書いたりする活動を位置付ける。

・接続詞の適切な用法や、代名詞への言い換え等についても段階を追って丁寧に指導し、それらを実際に用いて書いたり、書いたものを仲間同士で読ませることで「まとまりのある文章」のよさを理解させる。

・書いた後には、まとまりのある文が書けているかペアで読み合い、修正しながら再度書かせる。相手意識や目的意識をもたせ、多様な活動で興味・関心を喚起する学習活動を工夫する。

・「誰に向けて」「何のために」等の場面設定を工夫して書く内容のイメージを膨らませる。

・手紙、日記、メール、広告、メッセージ、感想文、新聞、ポスター等、多様な形式で書かせる。

・トピックについてブレイクストーミングし、書く内容に対するイメージを広げてから書かせる。

単元の学習後の個の見届けを行うとともに、年間の見通しの中で定着を図る。

・単元末や定期テストで、類似のトピックで書く問題を出題し、定着度の確認を行う。

(3) 示された内容が正しく伝わるように書く力をみる問題の例

<問題> 9 の2

2 ALTのリズベス(Lisbeth)先生が、友人にはがきを出すつもりです。次の伝えたい内容を見て、リズベス先生の立場になって、()に入る英文を書きなさい。
【伝えたい内容】ミナモ公園(Minamo Park)へ行ったこと

【はがき】

Dear Mary,
I am in Gifu.
Last Sunday ().
I saw many beautiful flowers.
I had a good day there.
Your friend,
Lisbeth

<結果> 正答率 25.5% (正答...略)

<分析>

この設問は、示された内容が正しく伝わるよう、文法事項を踏まえて書く力をみる問題である。誤答の中の約8割は主語のIが欠落していたものである。この問題では文頭にLast Sundayが与えられているが、このLast Sundayが文末にあれば主語のIから書き始める生徒がかなり増えたのではないかと予想される。同時に、第2学年の4月において、「主語+動詞」という、最も初歩的な英文の文構造の特徴をつかめていない生徒がとても多いと言える。

その他の誤答としては動詞が過去形になっていなかったり([例]I go to the Minamo park.)、間違った動詞になっていたりするもの([例]waked Minamo park.)がある。また文レベルまで思いつかず、minamo parkやin Minamo parkといった句のみの回答もあった。

<指導方法の工夫改善>

日本語との違いを踏まえた英文の特徴、各言語材料の正しい用法、中学生段階で多い誤答の傾向等を踏まえ、学年の発達段階に応じたきめ細かな指導のステップをふむ。【書くこと(イ)】

- 英文の構造を正しく理解し、主語を決め出し、正しい語順で書く段階的な指導の充実を図る。
- ・第1学年の段階としては、間違いを恐れず、目的語の置き換え等をしながら単文でたくさん書く経験を積ませて、書くことへの抵抗感を無くす。
 - ・自分のことを書き伝える際には、全体指導の中で、言語材料を踏まえて正しい文を書く指導を徹底した後、その文を参考にしながら自己表現するというステップを大切にする。
 - ・主語が省略されることの多い日本語との構造の違いを踏まえ、主語を明確にして書く指導の充実を図る。
 - ・同じ内容を表すにも多様な表現があることに気付かせ、表現力を高める。
*気持ちを書く 「人が主語」I was very happy. I enjoyed it very much. I had a good time.
「物が主語」It was very interesting. It made me happy. . . .
- 「話すこと」の指導と関連させ、正しく表現する指導の充実を図る。
- ・Oral Interactive Introductionにおいて、教師の問いに対して単語で答えさせた後、フルセンテンスでリピートさせる。
 - ・言語活動中には対話をしている生徒の発話を注意深く聞き取り、より正確な発話を求めて、中間交流や活動後に指導する。その際、多くの生徒に共通する誤りなのか、一部の生徒の誤りなのかを見極め、フィードバックの方法を工夫することが必要である。前者の場合は活動後に板書でポイントをわかりやすく示した上で、さらに全体練習するなどして定着を図る。
 - ・話した内容を想起して書きまとめ、文法的な誤りを添削して生徒に返す。
 - ・ノート指導や家庭学習との関連を踏まえた学習習慣を身に付ける指導の充実を図る。
 - ・単語練習のしかた、授業の復習方法等を、年度や学期ごとの初め等の機を捉えて指導する。
 - ・学年の発達段階を踏まえ、家庭学習で毎日少しずつ、書く内容や量を示す。
 - ・新出言語材料を用いた自己表現文を家庭学習に課し、授業の最初に班で交流したり発表したりするなどの時間を設定する。

3 分析を踏まえた指導改善事例

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上PJ授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19~H21)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gcc/)

- 例 : 平成19年度 第1学年 Unit 8 「はじめてのカナダ旅行」(NEW HORIZON, 1)
・一文一文の文構造を意識させるとともに、まとまりのある英文を書く力の育成
- 例 : 平成20年度 第2学年 Lesson 6 “Ratna Talks about India”(NEW CROWN,2)
・帯活動等も活用し、相手の意向を理解し、適切に応答することができる力の育成
- 例 : 平成21年度 第3学年 Unit 5 “Cell Phones - or Against?”(NEW HORIZON,3)
・自分が伝えようとする事と仲間の意見をかかわらせながら書きまとめる力の育成

